会議記録

附属機関の名称	熊谷市自治基本条例審議会
開催日時	令和２年２月１９日（水）　９時２５分から１１時１５分まで
開催場所	熊谷市役所本庁舎　３０２会議室
出席者	【委員】計６名 濵畑芳和会長、依田悦代副会長、出浦尚明委員、安藤君子委員、 加藤英明委員、渡辺和敏委員 【事務局】企画課職員計３名 丸山課長、新井主査、金子主査 計９名
傍聴人	０人
問い合わせ先 （所管課）	総合政策部企画課（市役所本庁舎３階） 電話　０４８－５２４－１１１１（内線５２９）
内容	**１　開会（企画課長）** 熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認 **２　委嘱状の交付（市長）** 出席委員６名（公募委員２名含む）に委嘱状を交付した。 **３　挨拶** **富岡市長** 平成１９年１０月に施行された熊谷市自治基本条例も１２年が経過した。本条例の検討段階から参画されている委員の方々、新たに参画いただいた方々も、様々なまちづくりに参加してこられた方であり、大変心強く思っている。今後も市民主体のまちづくりを推進するため、引き続き御協力をお願いしたい。 **４　委員の紹介** **５　会長・副会長の選出** **濵畑会長** 委員の皆さんから忌憚のない御意見をいただき、活発な意見交換ができるよう努めていきたい。御協力をお願いしたい。 **依田副会長** 様々な市民活動団体の繋がりを促進させ、熊谷市が発展できるように

	努めていきたい。 **6　議事** 審議会条例第６条第１項の規定に基づき、濵畑会長が議長となり進行 （１）自治基本条例の推進状況について 事務局から会議資料にしたがって説明 ①市報くまがや２月号の特集等について ・認知症の啓発活動として３ページにわたり特集が組まれていた。市民目線の記事であり非常に感心した。現在、介護の現場で問題となっているのは子供が家族を介護するヤングケアラーの解消である。生産力を低下させないためにも介護離職を防止することはとても重要であるが、そのために子供が介護者となっている現実がある。熊谷市にもヤングケアラーがたくさんいる可能性がある。そのような子供達をなくせる熊谷市になれば非常に良いと思う。 ②協働の原則（第４条関係）について ・「協働」とは自治基本条例の大原則であり最重要条項である。地域の課題に対応してこそ協働の原則が生きてくると考えている。現在、介護分野での人手不足は深刻な状況であり、今後は介護事業自体の存続も危うくなる可能性もある。このような人材不足等の地域課題の解決には市民と行政が力を合わせることが必要である。そこで公務員が報酬を得て積極的に市民活動等に参加できるよう、社会貢献のための兼業・副業の促進制度を導入してはどうだろうか。政策立案の参考として情報提供させていただきたい。 ・介護における人材の確保は難しい問題である。とりわけ地域に根差した介護事業者ではよい人材をどのように確保するかが悩みであると聞いている。このような状態を放置すると事業者の撤退に繋がりかねない。こうした中、兼業・副業で休日余暇活動として市職員が参入することは良いことと思われる。 ③市民活動講座への参加者数増加について ・平成２９年度から平成３０年度、そして令和元年と参加者数が急増している理由はなにか。 →市民活動支援センターの指定管理者である「NPO くまがや」による自主事業が平成２９年度では２６回、平成３０年度では４０回と増加していることが理由である。なお、令和元年度の実施回数は把握していないが、平成３０年度の実施回数を上回るとのことである。 ・市民活動登録団体数も増えているが、それぞれの団体と各種の課題解決に向けてのコーディネート等は行われているのか。 市民活動推進センター、市民活動推進課のみならず、市の様々な部署と連携し協働を高める努力を行っていただきたい。 →市民活動支援センターの指定管理者である「NPO くまがや」

	が登録団体のコーディネートやマッチングの他、様々なサポートを実施している。 ④高齢者社会への対応について ・人生１００年時代に入り、元気なシニアを発掘することで人手不足を解消することで、高齢者の活性化にも繋がると考えられる。そして、長寿を楽しむ流れを作ることが大切である。基礎介護の予防や、地域活動への参加、幸せ作りのための健康教室の実施等も必要である。このような流れがあれば、元気な長寿社会を実現できると思われる。 ダイバーシティ熊谷として人材発掘を推進すべきだと考えている。 ⑤市民協働事業「熊谷の力」の事業について ・「熊谷の力」事業を熊谷市のブランド力として推進する必要がある。また、この事業をSDGｓとリンクして、１０年後の熊谷市を育てていくことが大事である。 →「熊谷の力」は市民からのプレゼンテーションを経て実施の有無を決定するものである。熊谷の力事業はその継続性、自立性も含め審査されるものであり、市との協働実施が終了しても活動継続する事業が多数である。 ・令和２年度実施の２事業は共に福祉関係の事業であるが、意図することがあったのか。 →令和２年度の提案事業は４事業だったが、事業効果等を検討し、採択された結果が福祉関係の２事業であった。 ⑥熊谷市における児童虐待等の相談について ・昨今、児童虐待に関するニュースが多いが、熊谷市の場合はどうだろうか。近くに児童相談所があるが対応は迅速に行ってもらえるのだろうか。 →児童虐待等の件数が多いという報告は受けていない。また、市内の児童相談所との連携であるが、事例があった場合には県と協働して迅速に対応している。 児童虐待関連の通報があった場合は、仮に「虐待の恐れがある」とのことでも厳格に対応している。 ⑦ハートフル・ミーティングについて ・ハートフル・ミーティングの取組は非常に素晴らしいことだと感じている。寄せられた御意見はきちんと反映されているのだろうか。 →ハートフル・ミーティングで寄せられる意見の傾向から申し上げたい。地元の課題が意見として出される場合もあるが、現在人口減少に伴う公共施設の整理統合が大きな問題である。このままでは施設維持費が膨れあがり財政を圧迫することになってしまう。そこで、アセットマネジメントの計画を実施しているところであるが、この施設の再編に関する御意見が多くなっている。

	ハートフル・ミーティングは小中学校区だけでなく、若手商業者等に向けても実施されており、様々な御意見が寄せられ、それぞれの意見は対象業務等に反映されている。 →社会の担い手不足についての補足説明となるが、現在、人口減少対策に特化した計画である第2期となる熊谷市人口ビジョン・総合戦略を策定中である。第2期戦略の施策の中で、地域を支える人材・組織の育成として、生涯にわたり能力を高める環境づくりや、担い手不足に対しては、誰もが活躍する社会の実現として多様な働き方の支援も提案していく必要があると考えている。 公務員の副業の部分であるが、現在もボランティア休暇等の制度があるが、有償ボランティア等についても検討の余地があるのか所管課にも情報提供していきたい。 ⑧中心市街地の空洞化と郊外型集合住宅について ・本市の中心的な市街地が空洞化しているような感じを受けるが、郊外の住宅地は比較的人が集まっているようだ。この郊外の住人達が年老いた場合、中心地へはどのように行けばいいのだろうか。アセットマネジメントにより施設が統合されてしまうといったこともあると思う。郊外の住人にとって移動手段は非常に重要なことである。 中心市街地の空洞化を解消するための施策と、郊外の交通手段についてきめ細かい対応をお願いしたい。 補足であるが、健康増進の意味も込めて自転車の活用を促進し、自転車利用者には健康ポイント等を付与するような仕組みを作ってはどうか。 →施設再編に伴って異動の不便が発生してしまうことがある。不便解消のため公共交通を充実させていくということが大切である。本市は周辺市町村と比較すると公共交通網が充実している。この交通網を補完するという視点から、ゆうゆうバスの路線の見直し等を考えている。 ゆうゆうバスは、昨年の10月から12月にかけて実証実験として、籠原駅から熊谷駅までくまぴあ経由の新路線を運行した。また、学校の統廃合が行われた場合、朝夕に通学のためのスクールバスを運行し、昼間はそのバスを地域内運行バスの活用することも考えている。 さらに、長期的な話になるが人口の集積を目的とした立地適正化計画も現在策定中である。 ⑨台風等の災害対応について ・昨年の台風19号による被害は大きかったと思うが、市民活動の側面からの災害対応はどうだったのか。 →台風19号の対応として、市内52ヶ所の避難所を開設し10,160人の避難者受入を行った。この災害によって地域の連絡体制や避難手段、いわゆる自助・共助の重要性が再認識された。そこで、危機管理課で

	は自助・共助に特化したマニュアルを作成し、2 月 15 日（土）に実施された自主防災リーダー研修会において配布し活用を促した。 ⑩市町へのメールについて ・市長へのメールの対応は非常に丁寧である。このように丁寧な対応が期待出来るのであれば市民の方も意見を出しやすいと思う。このようなよい対応が市長へのメール、手紙が増加した一因ではないかと思う。 →広報広聴課では寄せられたメールや手紙を真摯に受け止めている。返信については一定の要件、例えば氏名、住所等が記載されているかどうかによって有無を決定する。寄せられる御意見は多岐にわたっており、内容に応じて所管課に通知し即時解決が望める案件と、時間がかかるものがあるが、いずれにしてもきめ細かく対応している。 回答については初回のみ市長名で回答し、同様の案件に対し複数回くるものについて 2 回目以降は所管課長名で回答している。 市長もハートフル・ミーティングや市長へのメールや手紙は、市民の皆さんからの意見を伺う一つの手段として大切に受け止めており、全てのメール、手紙の内容と回答を認識している。 ⑪アクティブシニア地域デビュー推進事業について ・アクティブシニア地域デビュー推進事業は埼玉県の事業である。地域の元気なシニアを対象に、介護関係の資格を取得できる事業だが、受講者が非常に少ない状態である。この制度は地域課題解決の一助になると思う。 （2）その他 特になし。 **6　閉会（企画課長）**

※　この会議記録は、熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱第１０条に規定する様式第２号により、作成しています。